

公明党千葉市議会議員団

市議会だより

発行日/令和8年1月 発行/公明党千葉市議会議員団
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1-1

2026
新春号

本年も皆様のご期待に、全力でお応えしてまいります。



物価高騰対策に係る緊急要望書等を神谷市長へ提出!

世界的な資源・原材料価格の高騰や円安の影響により、食料品・エネルギー価格をはじめ生活必需品の値上げが続いております。

そこで、市民の安心と地域経済の持続的発展のため、生活者への支援として、食料品の購入支援など、低所得者や中間層も視野に入れた支援策を求めました。

併せて、子宮頸がん撲滅に向けたHPVワクチン接種推進に関する要望書も提出し、女子定期接種対象者全員への毎年の個別通知の実施や接種率向上に向けた取組みの充実、さらに男性への接種費用助成制度の創設と対象者への周知・啓発の徹底を求めました。

神谷市長からは、「食料品支援については、効果的な手法をしっかりと検討し、速やかに補正予算を編成していく。」旨のコメントがありました。



ち

千葉国際芸術祭2025 開催報告 ちから、ひらく。

地域の可能性をひらく参加型アートプロジェクトの祭典

2026年の「千葉開府900年記念事業」の一環として、昨年9月19日から11月24日までの期間、千葉国際芸術祭2025が開催されました。この芸術祭は、国内外から32組のアーティストが参加し、計37のアートプロジェクトを展開。市内の商業施設や公共空間などのまちなかを舞台にした初の市民参加型での実施により、市の自然・歴史・文化の豊かさを再認識する機会となり、地域の魅力が広範囲に届けられました。

市議団では、芸術祭のトリエンナーレ開催を推進し、今後も千葉市の文化・芸術の裾野をさらに広げていくことを目指してまいります。



提供：千葉国際芸術祭実行委員会 / 撮影：ただ（ゆかい）



2025年 第4回定例会 公明党市議団の代表質問から



認知症損害賠償補償制度の導入へ！

市議団では、認知症の方が事故を起こした際に、家族が高額な賠償責任を負う不安を軽減するため、認知症損害賠償補償制度の導入をはじめ、見守り支援の強化や市民啓発活動の拡充など、安心して暮らせる地域社会の実現に向けて積極的に提案を重ねてまいりました。

今定例会の代表質問では、市長から「認知症の人や家族の外出への不安を軽減することで認知症の人の社会参加を促進するため、第2次実施計画期間中に本市が認知症損害賠償保険に加入することを検討している。また、本市で実施している認知症の人の見守りシステム『どこシル伝言板』との連携なども検討している。」との答弁がありました。

これからも安心のまちづくりを推進してまいります。



千葉市立郷土博物館リニューアルオープン！ 千葉開府900年、市民とともに歴史を見つめ直す

千葉開府900年を迎えるにあたり、本市の起源である千葉氏の歴史と功績を改めて見つめ直し、市民の誇りを育む大切な機会となっています。

その中心的な役割を担う施設として、千葉市立郷土博物館がリニューアルオープンしました。



リニューアルオープンした
千葉市立郷土博物館を視察

今回のリニューアルでは、テーマを「陸と海・人とモノを結ぶ『千葉』」とし、原始から近現代までの時代の流れを体系的に紹介。展示の工夫により、来館者が歴史を身近に感じ、郷土の歩みを自分事として理解できる内容となっています。

映像やデジタル技術を活用した体験型展示も導入され、従来の展示に比べて一層わかりやすく、親しみやすいものとなりました。

市議団ではこれまで、郷土の歴史・文化研究の重要性を取り上げ、展示の工夫や先端技術の活用を提案してきたところであり、千葉開府900年を契機に、市民の理解と参加を広げる大きな一歩と考えております。

代表質問では、展示リニューアルについて、および、千葉開府900年に向けた今後の取組みについて質問しました。

教育長からは、「令和8年1月23日より記念特別展『千葉氏と城館一住まう・治める・戦うー』を皮切りに、年間を通じて関連展示や講座を企画・検討すること、また、通史展示を未来のまちづくりを考える場として多くの方々にご覧いただきたい。」との答弁がありました。

特に、若い世代への発信を重視し、小学校への出前授業や子ども向け教材の作成を進め、市内外の学校にも来館を働きかけていく方針が示されました。

町内自治会と多様な主体との連携について！

町内自治会は、地域の安全・安心の確保、防災活動、福祉支援、住民同士の交流促進など、地域社会の基盤を支える重要な役割を担っております。しかしながら近年、加入率の減少や少子高齢化による世帯数の減少、さらにはコロナ禍以降の親睦活動の縮小などが重なり、新規加入者の伸び悩みや役員の担い手不足が深刻化し、活動継続そのものが困難となる自治会も増えてきております。

代表質問では、地域活動における人手やノウハウの不足に対し、自治会とNPOなど多様な主体との連携を促すことが重要と求めました。

副市長からは、「千葉市民活動支援センターでは、市民活動団体や町内自治会等を対象に、福祉やまちづくりをはじめとした市民公益活動に役立つ情報を提供するとともに、各種講座の開催や活動に関する相談を通じ、団体同士をつなげるなどの支援を行うなどで、町内自治会の皆様の多くが課題と感じる業務の負担軽減に努め、地域の担い手確保の支援につなげていく。」旨の答弁がありました。

町内自治会の持続可能性を高め、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指してまいります。



千葉市民活動支援センターを視察

地下道の冠水対策強化について！ 地下道の冠水事故ゼロを目指して

道路は市民生活と地域経済を支える重要な基盤であり、安全性と交通機能の確保が欠かせません。

昨今の頻発化する集中豪雨等を受け、市は雨水管整備や冠水対策型柵の設置を進めていますが、地下道など低地では依然として冠水リスクが高い状況です。

このような中、地下道においては、通行規制を行う「エア遮断機の設置」や冠水状況をお知らせする「地下道冠水情報システム」などの対策を行っています。

市議団は市民の安全確保を最優先に、地下道冠水対策のさらなる強化を求め、副市長からも対策強化に取り組む旨の答弁がありました。

今後はライブカメラなどによりリアルタイムで道路状況を監視できる体制構築について提案し、市民の安心につながる体制強化を推進してまいります。



エア遮断機・下水道冠水情報システムの運用を視察（中央区村田町）

Topic いきいきプラザに設置の「電位治療器」について！

市内各区のいきいきプラザに設置されているスカイウェル電位治療器は、「座るだけで健康維持をサポートする交流高圧電位治療器」として評判です。

厚生労働省に認可された医療機器であり、頭痛・肩こり・慢性便秘・不眠症の緩和に効果が認められていることから、特に慢性的な症状に悩む高齢者や利用者にとって、安心して継続できる予防的健康支援の手段となっています。

さらに、施設内での利用を通じて、健康維持だけでなく交流の場が広がり、孤立防止やコミュニティ形成にもつながっています。



稲毛いきいきプラザ施設内スカイウェルの前で！

市政に関するご意見やご要望をお寄せください！